

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業研究事業）
分担研究報告書

成人を対象とした歯科健診に対する住民のニーズと選好に関する Web 調査

研究代表者：安藤雄一（国立保健医療科学院・口腔保健部 口腔保健情報室長）

研究分担者：深井稔博（深井保健科学研究所、所長）

研究協力者：石田智洋（東京医科歯科大学歯学 教育システム評価学分野）

大山 篤（東京医科歯科大学 歯科総合診療部）

研究要旨

歯科健診に対するニーズについて検討することは、Expressed Needs をより幅広く捉えるという面で意義がある。そこで、今回、日本歯科医師会が提唱した新しい成人歯科健診（通称「生活歯援プログラム」）の提供するサービスに対する希望状況などを中心に、Web アンケート調査を実施した。調査対象者は、Web アンケート調査会社のモニタから 20～60 歳代の男女各 103 名、計 1,030 名であり、「生活歯援プログラム」が提供するサービスの受け入れ状況と、その要因、およびサービス提供の判定基準との関連について分析を行った。

その結果、「生活歯援プログラム」が提供する各サービスは約 3 分の 2 が肯定的に受け止め、受け入れは比較的高いと考えられた。さらに、その要因を検討したところ、一般的にみて歯科保健とくに歯科受診に対する意識の高さと関連が強いことが示唆されたが、受診しづらいと思われる対象者のニーズを捉えている面もあり観察された。

また、「生活歯援プログラム」において質問紙票から判定される提供サービスの判定基準と受け入れ状況との関連をみたところ、自覚症状の多い人ほど「口腔内の悩みごとの相談」を希望する割合が高いというポジティブな関連が認められた反面、「実技指導」については、これが必要と判定された人ほど希望していないというネガティブな関連が認められた。これらの結果は、サービス提供の必要性が高い人に重点的にサービスを提供するという方針にかなった結果と解釈された。

A. 目的

Bradshaw¹⁾のいう Expressed Needs は医療機関への受診の有無で評価されることが多いと思われるが、歯科健診はその周辺に位置するものと捉えることができる。よって、これについて分析を行うことにより、歯科のニーズについて、より幅広く捉えることが可能となることが期待される。

たとえば、平成 17 年国民健康・栄養調査（生活習慣票調査票）の調査協力者に対して行った歯科疾患実態調査の参加有無の要因を調べた調査では、家計支出の低い層ほど歯科

疾患実態調査への参加率が高く、通常の歯科医院への受診行動とは逆の傾向が生じているという興味深い結果が観察されている²⁾。

そもそも歯科健診に対する捉え方は多義的で³⁾、歯科診療の一環として捉えられる場合もあれば、歯科診療とは別に扱われる場合もある。

本稿では歯科健診のニーズについて分析を行うが、歯科診療を診療とは別個のものと捉えることにする。

歯科健診は、小児の場合は制度的に定着しており、乳幼児～保育所～小中学校～高等学校と、母子保健法や学校保健法などを基盤に、ほぼ絶え間なく歯科健診が実施されている。成人では行政において歯周疾患検診事業が実施されているが、その受診率は低く、内容的な問題点も指摘されている⁴⁾。

これを受け、日本歯科医師会では、歯科疾患の一次予防を中心とした新しい成人歯科健診の具体的な指針「標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル」⁵⁾を作成した。この指針では、従来の疾病発見型の歯科健診から、受診者の生活習慣の改善に導く支援に主眼を置いており、通称「生活歯援プログラム」と呼ばれている（以下、本報告ではこの呼称を用いる）。内容的には20の質問（資料1）から成る質問紙調査の回答結果から、その対象者に必要と思われるサービスを判定して提供する（資料2）。

そのため、この質問紙票を用いて、「生活歯援プログラム」において提供されているサービスとの関連をみることは、歯科のニーズ（Expressed Needs）を幅広く捉えるという作業につながり、本研究班にとって意義あるものと考えられる。

そこで、本報告では、歯科のニーズを幅広く捉える一環として、日本歯科医師会が提唱する「生活歯援プログラム」において行われている質問紙調査と同プログラムの提供メニュー（サービス）に対する選好度についてWeb調査を行った。本報告では同プログラムの提供サービスに対する住民の受け入れの程度と要因を把握し、さらに生活歯援プログラムが規定するサービス提供の判定基準と住民の選好度との関連について分析を行った。

B. 方法

1. 対象

対象はWeb調査を専門とする調査会社であるマクロミル社⁶⁾のモニター会員⁷⁾で、20～60歳代の男女の計10階層から各100名、計1,000名を予定して調査を実施した。

これらの対象者はデータが商品開発、研究などに利用されることを承諾して登録したモニター会員であり、個人情報も保護されている。

調査は2011年2月22日の20時30分から開始し、すべての階層で回答者が100名を超えた翌2月23日21時30分に終了した。最終的な回答者数は各階層103名、計1,030名であった。

表1. 回答状況

性	年齢階級	メール配信数 (a)	回答数 (b)	回収率 = b ÷ a (%)
男	20歳代	700	103	14.7%
	30歳代	400	103	25.8%
	40歳代	280	103	36.8%
	50歳代	230	103	44.8%
	60歳代	190	103	54.2%
女	20歳代	520	103	19.8%
	30歳代	280	103	36.8%
	40歳代	230	103	44.8%
	50歳代	190	103	54.2%
	60歳代	340	103	30.3%
全体		3360	1030	30.7%

回収率は、対象全体で 30.7%であり、年齢的には若い年齢層が低く、男女別にみると男性が低い傾向にあった（表 1）。なお、Web 調査の場合、回収数の上限に併せてモニター会員へのメール配信数を調整するので、回収率の計算方法は、郵送法など既存の紙媒体を用いた質問紙調査などとは異なり、得られた回答数を配信したメール数で除して算出した。

2. 分析項目

質問紙調査を行うに際し、「歯科健診」という言葉が多義的に受け取られる懸念³⁾があったため、「歯科健診」を表 2 に示した内容で定義し、質問紙の冒頭をはじめ、関連する質問の随所に示し、回答者が注意を払うようにした。

表2. 本調査で定めた「歯科健診」の定義

<p>「歯科健診」の定義</p> <p>本アンケートで調査する内容は「歯科健診」に関するものです。 ここでいう「歯科健診」は、以下のものを指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:市町村・事業所・保険者など ・実施場所:市町村や健保組合の保健センター、職場が主。歯科医院の場合もある【注】。 ・内容:歯や口の状態の診査、歯や口に関する相談・保健指導(ブラッシング指導など)など ・費用:無料である場合が多い <p>以上のように定義された歯科健診を、本アンケートでは「歯科健診」と「付き」で表記します。</p> <p>【注】 歯科医院を定期的に受診されている場合も「歯科健診を受ける」と言われることがありますが、かかりつけの歯科医院で専門的な予防ケアなどを継続的に受けている場合、本アンケート調査では「歯科健診」に該当しません。ただし、市町村や職場が指定する歯科医院で、お口の診査と簡単な保健指導を行う場合は、「歯科健診」に該当します。</p>

表 2 に質問項目の一覧を示す。質問数は 23 で、口腔状態・保健行動関連 (Q1 ~ 6)、歯科健診で提供されるサービスに対する選好 (Q7 ~ 17)、個人属性 (、Q18 ~ 23)) に関するものに大別される。なお、このうち Q4 ~ Q6 にて質問されている内容が、「生活歯援プログラム」の質問紙票 (資料 1) と同じ質問項目である。

表2. 質問一覧 (回答肢は資料1を参照)

質問番号	質問内容	回答方法	対象
Q1	あなたが一番最近、「歯科健診」を受けたのはいつ頃か？	SA	全員
Q2	一番最近受けた「歯科健診」は、どこで受けたか？	SA	全員
Q3	一番最近、歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか？	SA	全員
Q4	口腔状態・保健行動に関する質問群-1 (計16質問)	SA	全員
Q5	口腔状態・保健行動に関する質問群-1 (計8質問)	SA	全員
Q6	口腔状態・保健行動に関する質問群-1 (計3質問)	SA	全員
Q7	成人歯科健診において提供されるサービス(4種類)を受ける意思は？	SA	全員
Q8	歯科医師による口腔診査について、どう思うか？	SA	全員
Q9	「口腔内の悩みごとの相談」に要する時間で都合がよいと思われるものは？	SA	該当サービス希望者のみ
Q10	相談してみたい内容は何か？	自由回答	該当サービス希望者のみ
Q11	「口腔内の悩みごとの相談」において「行動目標」を立てることについての考えは？。	SA	該当サービス希望者のみ
Q12	「受診および職場・生活環境に関する相談」に要する時間で都合がよいと思われるものは？	SA	該当サービス希望者のみ
Q13	相談してみたい内容は何かですか？下記欄に自由に御記入ください。	SA	該当サービス希望者のみ
Q14	実技指導は個別(1対1)がよいか？、集団で複数の人たちと一緒に行うのがよいか？	SA	該当サービス希望者のみ
Q15	実技指導に要する時間で都合がよいと思われるものは？	SA	該当サービス希望者のみ
Q16	実技指導を歯科医院に行き受けるとして、行く回数は何回がよいか？	SA	該当サービス希望者のみ
Q17	実技指導を歯科医院に行き受けるとして、実技指導を受ける時間は、1回あたりの受診でどのくらいがよいと思うか？	SA	該当サービス希望者のみ
Q18	歯医者に行くのは怖いか？	SA	全員
Q19	歯科医院を受診する必要性について、どのように感じているか？	SA	全員
Q20	歯科以外の健診(検診)で、過去1年間に受けたものは？	MA	全員
Q21	身長と体重は？。	数値記入	全員
Q22	最終学歴で該当は？	SA	全員
Q23	(勤め先のある人のみ)勤め先の就業人数は？	SA	全員

このうち、本分析では、Q7において示されている「生活歯援プログラム」が提供する基本的なサービスに対する回答者の受け入れを主要分析指標として捉えた（表4）。

さらに、Q7の4項目の総合指標として、各項目について希望の強さに応じて得点化し（「受けたい」4点、「どちらかといえば受けたい」3点、「どちらかといえば受けたくない」2点、「受けたくない」を1点）、その合計値を「Q7スコア」とした。

表4. 日歯「生活歯援プログラム」が提供する基本サービスの受け入れに関する質問(Q7)と回答肢

Q7 以下は日本歯科医師会が提唱する「新しい成人歯科健診(略称:生活歯援プログラム)」において提供されるサービスを示したものです。
あなた御自身が受けてみたいと思うかどうかについて、以下からそれぞれ選んでください。
【必須入力】

	1 受けたい	2 どちらかといえば 受けたい	3 どちらかといえば 受けたくない	4 受けたくない
1. 基本的な情報提供 専門家による支援がとくに必要ないと判定された場合で、啓発資料の配布など、最新の情報提供が行われます。→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 口腔内の悩みごとの相談 十分なセルフケアは行えているが歯周病の自覚症状がある人や、セルフケアが十分でなく歯周病がごく初期の状態であり自覚症状がない人が対象となります。これまでどこどこ相談してよ、わからなかった人にも、セルフケア改善に向けた丁寧なアドバイスを行います。→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 受診および職場・生活環境に関する相談 質問紙等の結果で該当すると判断された人、歯科医院での精査が必要と考えられる人に実施します。定期健診や治療のための歯科医院への受診を勧め、場合によっては精密検査のための歯科医院の紹介等も行います。また、歯の健康に関する職場や生活環境についても相談を受けられます。→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 実技指導 セルフケアが十分でなく、歯周病の自覚症状がある人が対象となります。歯科の専門家(歯科医師、歯科衛生士)による実技指導を含めた支援の必要性が高いと判断された場合で、口腔清掃用具(歯ブラシ、フロス[糸ようじ]、歯間ブラシなど)の使い方や食生活に関するアドバイス等が行われます。→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

3. 分析方法

1) 基礎集計

全質問の回答状況の分布などについて基礎集計を行った。

2) 各サービスの希望状況の要因に関する分析

各サービスの希望状況（Q7の各項目と「Q7スコア」）について相互の関連をみた。

次いで、Q7の各項目を、「受けたい」または「どちらかといえば受けたい」に1、「どちらかといえば受けたくない」「受けたくない」に0を与えて二値化して、ロジスティック回帰分析を行った。分析は探索的に行い、説明変数として以下の変数を用いた。

性、年齢階級、婚姻の有無、子供の有無、個人収入、一番最近歯科健診を受けた時期、一番最近歯科受診した時期、「生活歯援プログラム」の質問項目、歯科への恐怖感、歯科受診の必要性、特定健診等の受診の有無、学歴、職場規模

また、「Q7スコア」を目的変数として同様の説明変数を用いた重回帰分析も行った。

3) 「生活歯援プログラム」で定められている類型化と各サービスの希望状況との関連

「生活歯援プログラム」では、受診者の特性に適したサービスを提供すべく、質問紙の回答状況によって「類型化」を行っているが、質問紙の回答状況によって決められる「類型化」と各サービスの希望状況との関連について検討した。

以上の分析は、Stata 11⁸⁾を用いて行った。

C. 結果

1. 調査全体の基礎集計結果

資料3に各質問の回答状況を示す。本文では、それぞれについて要点のみを記述する。

Q1～Q2の歯科健診の受けた時期と場所に関する質問では、1年以内が28%と最多で、受けた場所は歯科医院が約4分の3と最も高率を示した。

Q3の歯科治療を受けた時期では過去1年以内が最多(45%)であった。

Q4のうち、口腔に関する自覚症状(Q4-1～Q4-6)は、口臭が46%と最多で、以下、外観(40%)その他(40%)、噛み具合(36%)、痛み(28%)、発話(16%)の順であった。歯の数(Q4-7)では78%が「20本以上ある」と回答した、「自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられる」人は75%であった。歯科受診については、「かかりつけ歯科医院がある」(Q4-9)が66%、「なかなか歯科医院にいけないことがある」(Q4-10)が50%、「歯磨き指導を受けたことがある」(Q4-11)が69%、「年に1回以上は歯科医院で定期健診を受けている」(Q4-12)が30%であった。

Q5のうち、歯の自覚症状のうち、「いつも」が最多であったのは「冷たいものや熱いものが歯にしみる」(Q5-3)の9%で、「歯をみがくと血がでる」(Q5-1)の5%、「歯ぐきが腫れてブヨブヨする」(Q5-2)の4%が次いだ。保健行動に関する質問について、同様に、「いつも」の割合をみると、最も高い割合を示したのが「夜、寝る前に歯をみがく」(Q5-6)の67%で、以下、「歯間ブラシまたはフロス(糸ようじ)を使っている」(Q5-7)21%、「ゆっくりよく噛んで食事をする」(Q5-8)19%、「普段、職場や外出先でも歯を磨く」Q5-4(17%)の順であった。「間食(甘い食べ物や飲み物)をする」(Q5-5)について「いつも」と回答した人は34%であった。

Q6において各質問に「はい」と回答した割合は、「家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がある」(Q6-1)43%、「自分の歯には自信があったり、人からほめられたことがある」(Q6-2)14%、「フッ素入り歯磨剤(ハミガキ)を使っている」(Q6-3)32%であった。

Q7は後述するので(図1、図2)、ここでは割愛する。

Q8の歯科医師による口腔診査については「どちらかといえば受けたい」が35%と最多であった。

Q9「口腔内の悩みごと」に要する時間では5～10分が最多(38%)であった。

Q11「行動目標を立てること」については66%が「どちらかというともっと好ましいことだと思う」と回答していた。

Q12「受診および職場・生活環境に関する相談」に要する時間では5～10分が最多(38%)であった。

Q14～Q15の実技指導では、79%が個別を好み、要する時間は5～10分が最多(42%)

であった。

Q16～Q17の歯科医院で実技指導を行われる場合では、行く回数は1回が最多(47%)、1回あたりの時間は10～20分が最多(41%)であった。

Q18の歯科受診の怖さでは「まあそう思う」と「あまりそう思わない」が多かった(34～35%)。

Q19の歯科受診の必要性については、「どちらかといえば受診する必要はないと思っている」が最多(47%)であった。

Q20の歯科以外の健診受診では、特定健診受診が25%、その他の健診が26%であった。

Q21の身長・体重では、それぞれの平均値が男で170.8±5.9cm、68.2±10.5kg、女で157.8±5.4cm、53.4±8.5kgであった。

Q22の学歴では、高卒以下が28%、大卒以上が46%であった。

Q23の勤め先の従業員規模では、10人未満が最多(16%、勤めていない人を含んだ%)で、以下、10～30人(9%)、30～50人(6%)がこれに次いだ。

2. 「生活歯援プログラム」が提供するサービスに関する分析結果

1) 基礎集計結果

資料3で示した内容と重複するが、図1に「生活歯援プログラム」が提供する基本サービスの受け入れ状況を示す。各サービスともに最も多かったのが「どちらかといえば受診したい」で概ね5割前後であった。「受診したい」の割合は概ね6分の1程度である、これに「どちらかといえば受診したい」を加えると概ね3分の2の対象者が希望したことになる。

図1. 「生活歯援プログラム」が提供する基本サービスの受け入れ(全対象)

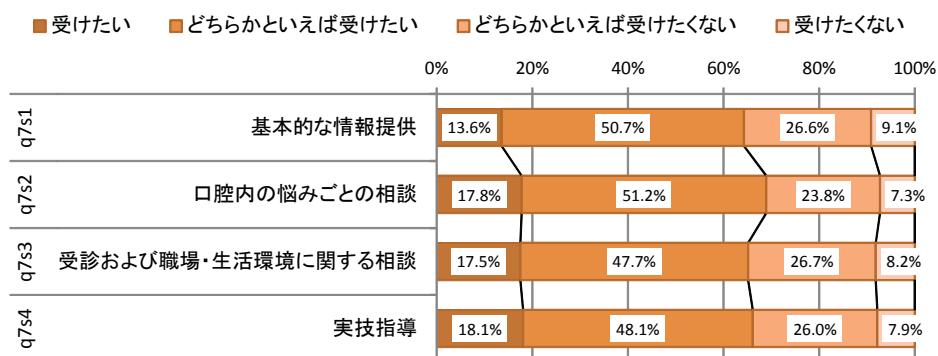


図2は各サービスの希望状況を性・年齢階級別に示したものである。どのサービスも高齢者層での希望率がやや低い傾向を示した。男女差は顕著ではなかった。

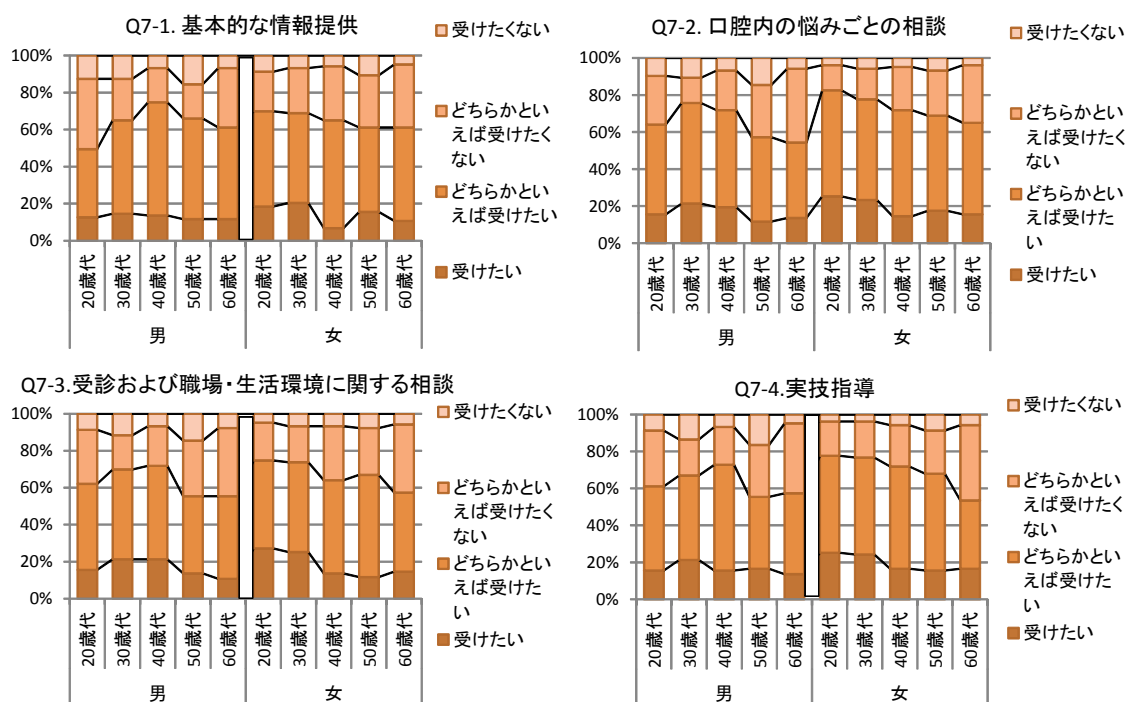


図2. 「生活歯援プログラム」が提供する基本サービスの受け入れ（性・年齢階級別）

図3に「Q7スコア」の分布と基礎統計量を示す。中央値と最頻値が12であった。ヒストグラムでは4の倍数他の値よりも多かった。

表5に「生活歯援プログラム」の各基本サービス間の相関係数を示す。相関係数の値は、いずれも0.6以上と高い値を示し、危険率0.1%未満で有意であった。

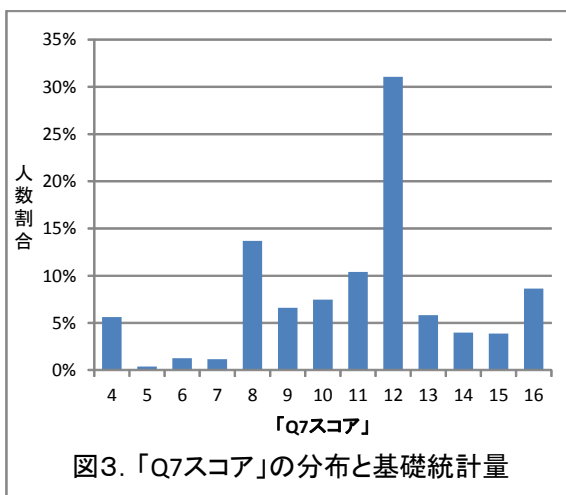


図3. 「Q7スコア」の分布と基礎統計量

表5. 各基本サービス間の相関係数

	Q7-1 基本的な情報提供	Q7-2 口腔内の悩みごとの相談	Q7-3 受診および職場・生活環境に関する相談	Q7-4 実技指導
Q7-1 基本的な情報提供	1			
Q7-2 口腔内の悩みごとの相談	0.71	1		
Q7-3 受診および職場・生活環境に関する相談	0.67	0.80	1	
Q7-4 実技指導	0.62	0.75	0.78	1

2) 各サービスの希望状況の要因に関する分析

表6にQ7において質問された「生活歯援プログラム」が提供する各サービスの受け入れ（希望）の有無について行ったロジスティック回帰分析および、これらを得点化した「Q7スコア」を目的変数とした重回帰分析結果を示す（表に示した説明変数は、目的変数のい

ずれかについて危険率1%水準で有意であったもののみ)。説明変数ごとにロジスティック回帰分析によって得られた各提供サービスとの関連をみると、年齢では60歳代が実技指導を受けたいという希望が低いことが示された。性では、女性で口腔内の悩みごとの相談を希望する割合が高かった。歯科受診時期では、3～5年前に受診した人で口腔内の悩みごとの相談を希望する割合が高かった。「生活歯援プログラム」の質問票では、口臭ありと回答した人の各種サービスを希望する割合が高かった。また、家族や周囲の人々が歯の健康に関心がないと回答している人および歯科医院での定期健診を受けていない人では各種サービスの希望率が低かった。歯ぐきが腫れていると自覚している人は実技指導を希望する割合が高かった。歯科医院を受診する必要性については、必要がないと認識している人は各種サービスを希望する割合が低かった。一方、必要があると認識している人は、情報提供と受診等に関する相談を希望する割合が高かった。他の健診の受診状況では、特定健診を受診した人の受診等の相談および実技指導を希望する割合が高かった。

「Q7スコア」を目的変数とした重回帰分析では、概ね各サービスに対する希望を目的変数としたロジスティック回帰分析結果を総合した結果が得られた。

表6. 各提供サービスの選好度に関するの有無に関するロジスティック回帰分析結果

※ 目的変数のいずれかについて危険率1%水準で有意であった説明変数のみを表示

説明変数		ロジスティック回帰分析								重回帰分析		
		Q7-1 情報提供		Q7-2 口腔内の悩みごとの相談		Q7-3 受診および職場・生活環境に関する相談		Q7-4 実技指導		Q7-1～4における各スコア(1～4)の合計値		
		オッズ比	p値	オッズ比	p値	オッズ比	p値	オッズ比	p値	偏回帰係数	p値	
		1: 受けたい・どちらかといえば受けたい 0: どちらかといえば受けたくない・受けたくない								※ 4～16: 値が多いほど希望が強い		
年齢階級(基準:40歳代)	60歳代	0.78	0.411	0.55	0.060	0.52	0.027	0.33	0.000	-0.50	0.136	
性(基準:男)	女	1.30	0.243	1.99	0.005	1.15	0.536	1.21	0.416	0.50	0.053	
一番最近、歯科健診を受けた時期(基準:1年未満)	3年以上5年未満	1.44	0.434	4.36	0.006	1.63	0.305	1.25	0.635	0.41	0.429	
「生活歯援プログラム」の質問紙調査項目(基準:該当せず)	1-4 歯や口の状態で気になることがある:口臭	1.63	0.007	2.12	0.000	1.49	0.029	1.78	0.002	0.66	0.001	
	3 自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめることができまい	1.45	0.091	1.49	0.086	1.33	0.207	1.24	0.339	0.75	0.003	
	5 歯ぐきが腫れてフヨフヨすることがある	1.12	0.602	1.32	0.233	1.34	0.175	1.85	0.006	0.20	0.409	
	10 家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がない	0.62	0.010	0.54	0.003	0.70	0.058	0.62	0.013	-0.57	0.006	
	20 年1回以上の歯科医院での定期健診を受けていない(毎回ではない)	0.41	0.003	0.43	0.007	0.59	0.074	0.45	0.010	-0.87	0.005	
歯科医院を受診する必要性について、どのように感じていますか(基準:どちらかといえば受診する必要はないと思っている)	受診する必要はないと思っている	0.47	0.117	0.26	0.007	0.33	0.023	0.33	0.023	-1.90	0.001	
	どちらかといえば受診する必要があると思っている	2.06	0.008	1.59	0.106	1.92	0.017	1.12	0.683	0.97	0.003	
	受診する必要があると思っている	2.68	0.004	1.97	0.061	2.54	0.006	1.47	0.259	1.39	0.000	
健診	特定健診	受診	1.35	0.158	1.41	0.119	1.83	0.004	1.77	0.007	0.51	0.030
主な勤め先の就業人数(9区分):基準:100～200人未満	200～300人未満	0.98	0.969	0.18	0.008	0.68	0.517	0.98	0.977	-1.17	0.083	
pseudo R ² / Adj R-squared)		0.139		0.188		0.153		0.152		0.195		

3) 「生活歯援プログラム」で定められている類型化と各サービスの希望状況との関連

「生活支援プログラム」のマニュアル⁵⁾に定められている各種サービスを提供するか否かに関する質問紙の回答状況による判断基準に従い、情報提供を除く3つのサービス（相談カウンセリング型、環境・受け皿整備型、実技指導型）を提供するか否かの判断を「類型化カットオフポイント」として、これに該当するか否かで各サービスの希望状況に違いがあるか否かを検討し、表7に結果を示す。「相談カウンセリング型」では非該当者が5%程度と少なかったが、希望者の割合は該当者（70.1%）が非該当者（49.1%）よりも高く、有意であった（ χ^2 検定、 $p=0.001$ ）。「環境・受け皿整備型」は7割強が該当と判定され、該当するか否かによる希望状況には有意差が認められなかった。「実技指導型」は9割以上が該当と判定され、該当の有無による希望状況の差は有意ではなかった。

表7. 「生活歯援プログラム」において定められている各サービス提供の基準と対象者の希望状況との関連

		類型化 カットオフ ポイント	各サービスに対する希望						p値 (χ^2 検定)
			人数			割合			
			なし	あり	計	なし	あり	計	
			受 ど ち た ら か く な い え ば 受 け た く な い ・	ど ち け ら か い ・ え ば 受 け た い	計	受 ど ち た ら か く な い え ば 受 け た く な い ・	ど ち け ら か い ・ え ば 受 け た い	計	
相談カウンセ リング型	「生活歯援」質問紙のQ1～6の「QOL、口腔内の状態・機能」の質問群で2項目以上該当するか否か	非該当	28	27	55	50.9%	49.1%	100.0%	0.001
		該当	292	683	975	29.9%	70.1%	100.0%	
		計	320	710	1,030	31.1%	68.9%	100.0%	
環境・受け皿 整備型	「生活歯援」質問紙のQ7～12の「支援的環境」の質問群で3項目以上該当するか否か	非該当	93	198	291	32.0%	68.0%	100.0%	0.221
		該当	266	473	739	36.0%	64.0%	100.0%	
		計	359	671	1,030	34.9%	65.1%	100.0%	
実技指導型	「生活歯援」質問紙のQ13～20の「保健行動」の質問群で3項目以上該当するか否か	非該当	21	56	77	27.3%	72.7%	100.0%	0.203
		該当	328	625	953	34.4%	65.6%	100.0%	
		計	349	681	1,030	33.9%	66.1%	100.0%	

表8は、表7において検討された該当質問数について2区分するのではなく、該当数そのものと各サービスの希望状況との関連をみたものである。「相談カウンセリング型」については、該当数が多いほど希望する割合は高い傾向が認められ、傾向性の検定でも有意であった（表8）。「環境・受け皿整備型」については有意な傾向は認められなかった（表8）。「実技指導型」では、該当数が多いほど希望しない割合が高いというネガティブな関連が認められ、傾向性の検定で有意であった（表8）。

表8. 各サービス(情報提供は除く)提供の類型化に用いる質問の該当数とサービスを希望する割合との関連

該当質問数	相談カウンセリング型			環境・受け皿整備型			実技指導型		
	「生活歯援」質問紙のQ1～6の「QOL、口腔内の状態・機能」の質問群で2項目以上該当するか否か			「生活歯援」質問紙のQ7～12の「支援的環境」の質問群で3項目以上該当するか否か			「生活歯援」質問紙のQ13～20の「保健行動」の質問群で3項目以上該当するか否か		
	希望(-)	希望(+)	希望率	希望(-)	希望(+)	希望率	希望(-)	希望(+)	希望率
0	9	5	35.7%	2	3	60.0%	0	0	
1	19	22	53.7%	26	42	61.8%	2	11	84.6%
2	56	63	52.9%	65	153	70.2%	19	45	70.3%
3	84	142	62.8%	113	221	66.2%	42	105	71.4%
4	76	208	73.2%	102	183	64.2%	70	182	72.2%
5	63	181	74.2%	50	66	56.9%	93	159	63.1%
6	13	89	87.3%	1	3	75.0%	75	128	63.1%
7							36	42	53.8%
8							12	9	42.9%
計	320	710	68.9%	359	671	65.1%	349	681	66.1%
p値(傾向性の検定: nptrend)	<0.001			0.126			<0.001		

D. 考察

1. 分析結果について

本調査の結果、「生活歯援プログラム」において提供されている各種サービスの受け入れは約3分の2が「受けない」ないし「どちらかといえば受けない」と回答していた(図1、図2)ことから、受け入れは高いことが示唆された。また、各サービスを希望する要因をみたところ、口臭を気にしている人の希望率が高いこと、家族や周囲の関心に影響されやすいこと、歯科受診の意向との関連が強いことなどと強い関連を有しており(表6)、一般的にみて歯科保健への関心の高さと関連が強いことを示唆するものであった。しかしながら、比較的長期間歯科医院を受診していない層において「口腔内の悩みごとの相談」を希望する率が高かったことのように、何らかの理由で歯科受診できない人のニーズを満たす面があるかとも示唆された。

「生活歯援プログラム」では、質問紙票の回答結果をもとに、受診者にとって好ましいサービスを機械的に判定して類型化する方式が採られているが、この判定と各サービス提供の希望との関連を分析したところ、各提供サービスによって異なる結果が得られた

(表7、表8)。「相談カウンセリング型」では該当する質問紙の項目が多いほど、つまり自覚症状が多いほど希望率が高かったが、「実技指導型」はこの逆で、該当する質問紙の項目が多いほど、つまり保健行動が好ましくない人ほど希望率が低かった。前者については、自覚症状が多いほど気になる度合いが高く相談したい気持ちも強くなるという、一般的にみられる心理によるものと考えられるが、自らの判断で受診する前に相談に乗ってもらいたいという意味では、受診者のニーズを満たしていることを示唆する結果と解釈できる。

一方、「実技指導型」への希望状況と歯科保健行動のネガティブな関連については、サー

ビス提供が本来必要な人たちが必要性を感じていないことを示すものである。この種のサービスを希望制にすると、指導の必要性が低い良好な歯科保健行動を有する人たちに偏ってしまいがちになるが、保健行動が好ましくない人たちをターゲットとすることにより、こうした懸念を是正できることが期待される。

2. 調査の問題点と考えられる事柄について

「生活歯援プログラム」が提供する各サービスによる受け入れをスコア化した「Q7 スコア」の分布をみると4の倍数が他の数値より際立って多く（図3）、全体の約6割を占めていた。また、このうち95%が4つの質問に対する回答肢が同一であった。これらの結果は、回答者が十分吟味せずに質問から得たイメージで回答している可能性を示唆するものと解釈できるが、その一方で、「生活歯援プログラム」は世間的にはほとんど普及していない段階で、対象者にとって文字を読んだだけでは具体的なイメージをつかみづらかった影響と解釈することもできる。アンケート調査は、熟考すればよい結果が得られるという性質のものではないので、今回観察された同一回答肢が多かったという結果は、それ自体が直ちに好ましくないと言えるものではないと考えられること、また要因分析により各サービスの特徴が反映された結果が得られており内容を吟味して回答した層も多かったことが推察されることから、結果全体を歪めるものではないのかもしれない。

また、Q1で尋ねた歯科健診に関する質問では28.3%が過去1年間に歯科健診を受けたと回答しており、平成16年国民健康・栄養調査の調査結果（20～60歳代の32.6%が過去1年以内に歯科健診を受けたと回答）に近似していた。しかしながら、国民健康・栄養調査では通常の歯科受診を含めた質問と解釈されるのに対し、本調査では歯科健診を通常の歯科受診において実施されているものは除外すると定義している（表2）という前提の違いがある点を踏まえると、現在行政ベースで実施されている歯周疾患検診の受診率が対象住民の数%程度⁴⁾である現状を踏まえると、本調査では多くの対象者が通常の歯科受診における歯科健診も含めて回答したという可能性は否めない。本調査では、仮想的な状況を設定してアンケート調査を実施したが、それがうまく回答者に伝わっていなかった可能性が考えられる。

3. 今後の展望

本調査は通常の歯科受診とは異なった視点で歯科のニーズを捉えた調査であるという特性があり、本報告で述べた内容は、その一部に過ぎないかもしれない。実際、自由回答の部分については時間がなかったこともあり、未着手状態であった。

今後、これらも含め、多様な視点を持ちながら分析を進めていきたいと考えている。

E. 結論

歯科健診に対するニーズについて検討することを目的に、日本歯科医師会が提唱した新しい成人歯科健診（通称「生活歯援プログラム」）の提供するサービスに対する希望状況などを中心に、Webアンケート調査を実施した。その結果、「生活歯援プログラム」が提供する各サービスは約3分の2が肯定的に受け止め、受け入れは比較的高いと考えられた。

さらに、その要因を検討したところ、全般的にみて歯科保健とくに歯科受診に対する意識の高さと関連が強いことが示唆されたが、受診しづらいと思われる対象者のニーズを捉えている面もあり観察された。

また、「生活歯援プログラム」において質問紙票から判定される提供サービスの判定基準と受け入れ状況との関連をみたところ、自覚症状の多い人ほど「口腔内の悩みごとの相談」を希望する割合が高いというポジティブな関連が認められた反面、「実技指導」については、これが必要と判定された人ほど希望していないというネガティブな関連が認められた。これらの結果は、サービス提供の必要性が高い人に重点的にサービスを提供するという方針にかなった結果と解釈された。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

H. 引用文献

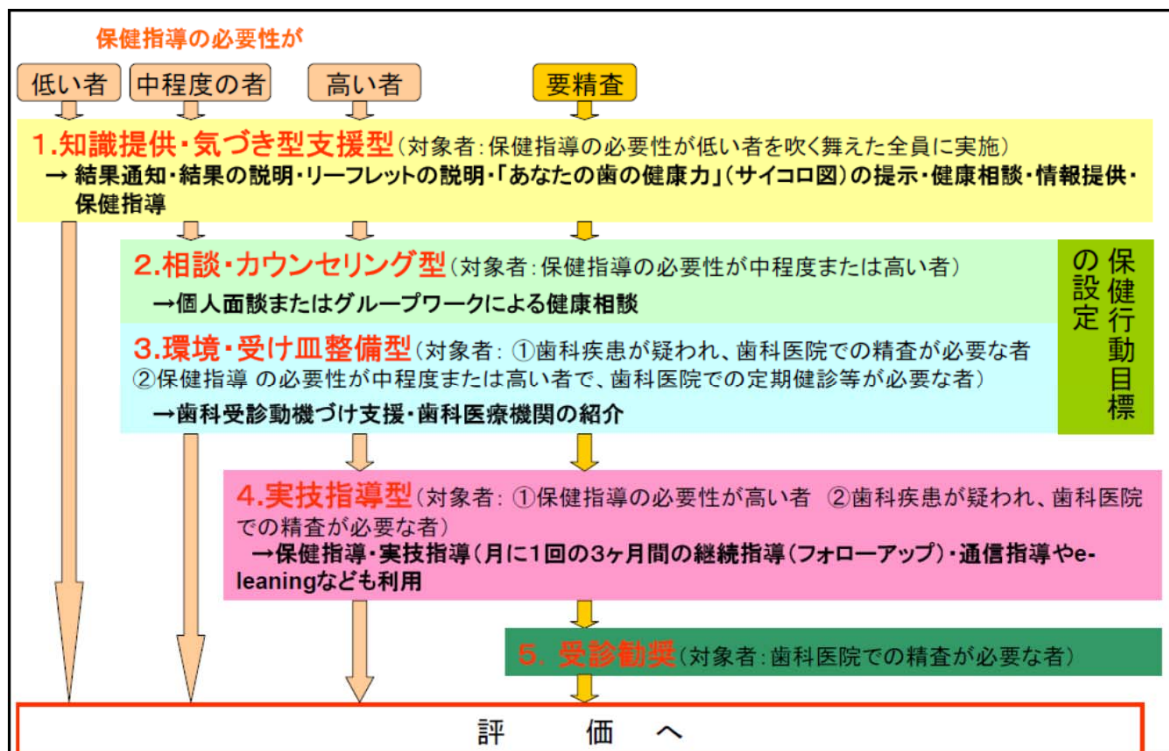
- 1) Bradshaw J. The concept of social need. *New Society* 1972; 30.
- 2) 安藤雄一. 歯科疾患実態調査の選択バイアスに関する検討 ～平成 17 年国民生活基礎調査－国民健康・栄養調査－歯科疾患実態調査のリンケージデータによる分析～. In: 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業研究事業）歯科の疫学調査における歯科疾患の診断基準並びに客体数に関する研究 平成 22 年度 総括・分担研究報告書（研究代表者：米満正美）；2011.
- 3) 石田智洋. 定期健診. *歯界展望* 2011；117(6)：1112-1113.
- 4) 日本歯科医師会「今後の歯科健診のあり方検討会」. 「今後の歯科健診のあり方検討会」報告書. 2005.
- 5) 標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル：
<https://www.jda.or.jp/program/>（日本歯科医師会ウェブサイト、2011 年 5 月 17 日アクセス）
- 6) マクロミル社ウェブサイト：<http://www.macromill.com/>（(株)マクロミル社ウェブサイト、2011 年 5 月 9 日アクセス）
- 7) マクロミルネットリサーチモニタ総数：
http://www.macromill.com/monitor_info/pdf/20110301web.pdf（(株)マクロミル社ウェブサイト、2011 年 5 月 9 日アクセス）
- 8) STATA - Data Analysis and Statistical Software：<http://www.stata.com/>（Stata 社ウェブサイト、2011 年 5 月 16 日アクセス）

資料1.「生活歯援プログラム」で用いられている質問票

★この質問紙は、歯科疾患や保健行動のリスクを把握して、必要と考えられる保健指導を把握するための質問紙になります。
1～20の質問で、当てはまる項目に○をつけてください。

	0点	・	1点
Q1 現在、ご自分の歯や口の状態で気になることはありますか	いいえ	・	はい
Q1-2 Q1で「はい」の場合、該当するもの <u>全て</u> に○をつけてください：1.噛み具合、2.外観、3.発話、4.口臭、5.痛み、6.その他			
Q2 ご自分の歯は何本ありますか（かぶせた歯（金歯・銀歯）、さし歯、根だけ残っている歯も本数に含めます） →本数もご記入ください（ ）本	20本以上	・	19本以下
Q3 自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめられますか	左右両方かめる	・	片方・ 両方かめない
Q4 歯をみがくと血がでますか	いいえ	・	時々 ・ いつも
Q5 歯ぐきがはれてフヨフヨしますか	いいえ	・	時々 ・ いつも
Q6 冷たいものや熱いものが歯にしみますか	いいえ	・	時々 ・ いつも
Q7 かかりつけの歯科医院がありますか	はい	・	いいえ
Q8 仕事が忙しかったり休めず、なかなか歯科医院に行けないことがありますか	いいえ	・	はい
Q9 現在、次のいずれかの病気で治療を受けていますか →該当するもの <u>全て</u> に○をつけてください：1.糖尿病、2.脳卒中、3.心臓病	いいえ	・	はい
Q10 家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がありますか	はい	・	どちらともいえない・いいえ
Q11 自分の歯には自信があったり、人からほめられたことがありますか	はい	・	どちらともいえない・いいえ
Q12 普段、職場や外出先でも歯を磨きますか	毎回	・	時々 ・ いいえ
Q13 間食（甘い食べ物や飲み物）をしますか	いいえ	・	時々 ・ 毎日
Q14 たばこを吸っていますか	いいえ	・	はい
Q15 夜、寝る前に歯をみがきますか	毎日	・	時々 ・ いいえ
Q16 フッ素入り歯磨剤（ハミガキ）を使っていますか	はい	・	いいえ ・ わからない
Q17 歯間ブラシまたはフロス（糸ようじ）を使っていますか	毎日	・	時々 ・ いいえ
Q18 ゆっくりよく噛んで食事をしますか	毎日	・	時々 ・ いいえ
Q19 歯科医院等で歯みがき指導を受けたことはありますか	はい	・	いいえ
Q20 年に1回以上は歯科医院で定期健診を受けていますか	はい	・	いいえ

資料2.「生活歯援プログラム」において提供するサービスと該当者の考え方



資料3. 各質問の回答状況

Q1	あなたが一番最近、「歯科健診」を受けたのはいつ頃ですか？ 下記のうち、あてはまるもの1つを選んでください。 単一回答	N	%
1	1年未満	292	28.3
2	1年以上2年未満	109	10.6
3	2年以上3年未満	85	8.3
4	3年以上5年未満	62	6.0
5	5年以上前	199	19.3
6	受けたことがない	283	27.5
	全体	1030	100.0

Q2	一番最近受けた「歯科健診」は、どこで受けましたか？ 下記のうち、あてはまるもの1つを選んでください。 単一回答	N	%
1	歯科医院(病院の歯科も含む)	558	74.7
2	市町村・保健センター	35	4.7
3	職場	60	8.0
4	学校	90	12.0
5	その他【 】	4	0.5
	全体	747	100.0

Q3	歯の治療についてお尋ねします。 一番最近、歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか？ 下記のうち、あてはまるもの1つを選んでください。 単一回答	N	%
1	1年未満	460	44.7
2	1年以上2年未満	153	14.9
3	2年以上3年未満	125	12.1
4	3年以上5年未満	98	9.5
5	5年以上前	174	16.9
6	受けたことがない	20	1.9
	全体	1030	100.0

Q4	以下の項目について、それぞれあてはまるものをお選びください。 【注】かぶせた歯(金歯・銀歯)、さし歯、根だけ残っている歯も本数に含めます 単一回答	全体	1	2
			はい	いいえ
1	噛み具合が気になる	1030 100.0	373 36.2	657 63.8
2	外観が気になる	1030 100.0	456 44.3	574 55.7
3	発話が気になる	1030 100.0	162 15.7	868 84.3
4	口臭が気になる	1030 100.0	478 46.4	552 53.6
5	痛みが気になる	1030 100.0	285 27.7	745 72.3
6	その他、気になるところがある	1030 100.0	414 40.2	616 59.8
7	自分の歯が20本以上ある【注】	1030 100.0	801 77.8	229 22.2
8	自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか	1030 100.0	776 75.3	254 24.7
9	かかりつけの歯科医院がありますか	1030 100.0	678 65.8	352 34.2
10	仕事が忙しかったり休めず、なかなか歯科医院に行けないことがありますか	1030 100.0	515 50.0	515 50.0
11	歯科医院等で歯みがき指導を受けたことはありますか	1030 100.0	713 69.2	317 30.8
12	年に1回以上は歯科医院で定期健診を受けていますか	1030 100.0	308 29.9	722 70.1
13	現在、「糖尿病」で治療を受けていますか	1030 100.0	44 4.3	986 95.7
14	現在、「脳卒中」で治療を受けていますか	1030 100.0	3 0.3	1027 99.7
15	現在、「心臓病」で治療を受けていますか	1030 100.0	14 1.4	1016 98.6
16	現在、たばこを吸っている	1030 100.0	182 17.7	848 82.3

Q5	引き続きお伺いいたします。 以下の項目について、それぞれあてはまるものをお選びください。 単一回答	全体	1	2	3
			いいえ	時々	いつも
1	歯をみがくと血がでる	1030 100.0	419 40.7	557 54.1	54 5.2
2	歯ぐきが腫れてブヨブヨする	1030 100.0	732 71.1	256 24.9	42 4.1
3	冷たいものや熱いものが歯にしみる	1030 100.0	442 42.9	495 48.1	93 9.0
4	普段、職場や外出先でも歯を磨く	1030 100.0	620 60.2	236 22.9	174 16.9
5	間食(甘い食べ物や飲み物)をする	1030 100.0	152 14.8	530 51.5	348 33.8
6	夜、寝る前に歯をみがく	1030 100.0	168 16.3	168 16.3	694 67.4
7	歯間ブラシまたはフロス(糸ようじ)を使っている	1030 100.0	459 44.6	356 34.6	215 20.9
8	ゆっくりよく噛んで食事をする	1030 100.0	377 36.6	456 44.3	197 19.1

Q6	引き続きお伺いいたします。 以下の項目について、それぞれあてはまるものをお選びください。 単一回答	全体	1	2	3
			はい	わいど かえら ないも ない／も	いい え
1	家族や周囲の人々は、日頃歯の健康に関心がある	1030 100.0	445 43.2	453 44.0	132 12.8
2	自分の歯には自信があったり、人からほめられたことがある	1030 100.0	142 13.8	300 29.1	588 57.1
3	フッ素入り歯磨剤(ハミガキ)を使っている	1030 100.0	331 32.1	303 29.4	396 38.4

Q7	以下は日本歯科医師会が提唱する「新しい成人歯科健診(略称:生活歯援プログラム)」において提供されるサービスを示したものです。あなた御自身が受けてみたいと思うかどうかについて、以下からそれぞれ選んでください。 単一回答	全体	1	2	3	4
			受けた たい	ど ち ら か と い え	ば ど ち ら か と い え	受 け た く な い
1	基本的な情報提供 専門家による支援がとくに必要ないと判断された場合で、啓発資料の配布など、最新の情報提供	1030 100.0	140 13.6	522 50.7	274 26.6	94 9.1
2	口腔内の悩みごとの相談 十分なセルフケアは行えているが歯周病の自覚症状がある人や、セルフケアが十分でなく歯周病がごく初期の状態であり自覚症状がない人が対象となります。これまでにどこに相談してよいかわからなかった人にも、セルフケア改善に向けた丁寧な	1030 100.0	183 17.8	527 51.2	245 23.8	75 7.3
3	受診および職場・生活環境に関する相談 質問紙等の結果で該当すると判断された人、歯科医院での精査が必要と考えられる人に実施します。定期健診や治療のための歯科医院への受診を勧め、場合によっては精密検査のための歯科医院の紹介等も行います。また、歯の健康に関する職場や生活環境につい	1030 100.0	180 17.5	491 47.7	275 26.7	84 8.2
4	実技指導 セルフケアが十分でなく、歯周病の自覚症状がある人が対象となります。歯科の専門家(歯科医師、歯科衛生士)による実技指導を含めた支援の必要性が高いと判断された場合で、口腔清掃用具(歯ブラシ、フロス[糸ようじ]、歯間ブラシなど)の使い方や食生活に関するアドバイス等が行われます。	1030 100.0	186 18.1	495 48.1	268 26.0	81 7.9

Q8	<p>通常の歯科健診では歯科医師がお口の診査を行います、日本歯科医師会が提唱する「新しい成人歯科健診(略称:生活歯援プログラム)」では、お口の診査が行われない場合が多くなります。</p> <p>歯科医師によるお口の診査について、どのように思われますか。最もあてはまるもの1つをお選びください。</p> <p>単一回答</p>	N	%
1	歯科医師による、お口の診査を受けた	305	29.6
2	歯科医師による、お口の診査をどちらかといえば、受けたい	362	35.1
3	歯科医師による、お口の診査を受けても受けなくても、どちらでもかまわない	226	21.9
4	歯科医師による、お口の診査をどちらかといえば、受けたくない	70	6.8
5	歯科医師による、お口の診査を受けたくない	60	5.8
6	その他【 】	7	0.7
	全体	1030	100.0

Q9	<p>「口腔内の悩みごとの相談」に要する時間についてお尋ねします。下記に示す所用時間のうち、あなた御自身にとって最も都合がよいと思われるもの1つをお選びください。</p> <p>単一回答</p>	N	%
1	5分未満	63	8.9
2	5分以上10分未満	271	38.2
3	10分以上15分未満	216	30.4
4	15分以上20分未満	71	10.0
5	20分以上30分未満	42	5.9
6	30分以上	7	1.0
7	わからない	40	5.6
	全体	710	100.0

Q11	<p>「口腔内の悩みごとの相談」では、先ほどQ4～Q6で回答していただいた27の質問の回答状況を踏まえて面談し、あなた御自身に必要な「行動目標」を立てることにしています。これについてどのようにお考えですか？最もあてはまるもの1つをお選びください。</p> <p>※上記画像は「行動目標」を設定する際に使用する、「口腔保健行動目標・自己評価票」のイメージです。</p> <p>単一回答</p>	N	%
1	好ましいことだと思う	111	15.6
2	どちらかというと好ましいことだと思う	468	65.9
3	どちらかというと嫌だと思う	120	16.9
4	嫌だと思う	11	1.5
	全体	710	100.0

Q12	<p>「受診および職場・生活環境に関する相談」に要する時間についてお尋ねします。下記に示す所用時間のうち、あなた御自身にとって最も都合がよいと思われるもの1つをお選びください。</p> <p>単一回答</p>	N	%
1	5分未満	81	12.1
2	5分以上10分未満	257	38.3
3	10分以上15分未満	188	28.0
4	15分以上20分未満	62	9.2
5	20分以上30分未満	26	3.9
6	30分以上	7	1.0
7	わからない	50	7.5
	全体	671	100.0

Q14	実技指導は個別(1対1)がよいですか？ それとも集団で複数の人たちと一緒に 行うのがよいですか？ 最もあてはまるもの1つをお選びください。 単一回答	N	%
	1 個別がよい	535	78.6
	2 集団がよい	62	9.1
	3 わからない	77	11.3
	4 その他 →具体的に【 】	7	1.0
全体		681	100.0

Q15	実技指導に要する時間についてお尋ね します。 下記に示す所用時間のうち、あなた御 自身にとって最も都合がよいと思われ るもの1つをお選びください。 ※実技指導は、職場や保健センターな どで行われるものとして、お答えくださ い。 単一回答	N	%
	1 5分未満	78	11.5
	2 5分以上10分未満	291	42.7
	3 10分以上15分未満	176	25.8
	4 15分以上20分未満	53	7.8
	5 20分以上30分未満	29	4.3
	6 30分以上	5	0.7
	7 わからない	49	7.2
全体		681	100.0

Q16	前問のように実技指導が職場や保健セ ンターなどではなく、 歯科医院に行って受けることができる 仕組みがあったとします。 歯科医院に行く回数は何回がよいで すか？ 最もあてはまるもの1つをお選びくださ い。 単一回答	N	%
	1 1回	319	46.8
	2 2回	96	14.1
	3 3回	32	4.7
	4 4回以上	3	0.4
	5 わからない	59	8.7
	6 回数にはこだわらない	153	22.5
	7 歯科医院には行きたくない	19	2.8
全体		681	100.0

Q17	実技指導が職場や保健センターなど ではなく、 歯科医院に行って受けることができる 仕組みがあったとします。 歯科医院で実技指導を受ける時間は、 1回あたりの受診でどのくらいがよいと 思いますか？ 最もあてはまるもの1つをお選びくださ い。 単一回答	N	%
	1 10分未満	208	31.4
	2 10分以上20分未満	272	41.1
	3 20分以上30分未満	129	19.5
	4 30分以上40分未満	14	2.1
	5 40分以上50分未満	1	0.2
	6 50分以上60分未満	1	0.2
	7 60分以上	1	0.2
	8 わからない	36	5.4
全体		662	100.0

Q18	歯医者に行くのは怖いですか？ 最もあてはまるもの1つをお選びくださ い。 単一回答	N	%
	1 非常にそう思う	140	13.6
	2 まあそう思う	354	34.4
	3 あまりそう思わない	355	34.5
	4 全くそう思わない	181	17.6
全体		1030	100.0

Q19	歯科医院を受診する必要性について、 どのように感じていますか？ 最もあてはまるもの1つをお選びください。 単一回答	N	%
1	定期的を受診しているので必要ない	205	19.9
2	受診する必要はないと思っている	46	4.5
3	どちらかといえば受診する必要はないと 思っている	123	11.9
4	どちらかといえば受診する必要があると 思っている	479	46.5
5	受診する必要があると思っている	177	17.2
	全体	1030	100.0

Q20	歯科以外の健診(検診)について、過去 1年間に受けたものすべてをお選びください。 複数回答	N	%
1	特定健診(通称「メタボ健診」)	256	24.9
2	その他の健診【 】	266	25.8
3	受けていない	553	53.7
	全体	1030	100.0

Q22	最終学歴について、下記のうち該当する ものを1つ選んでください。 ※在学中の方は、在学の学校について お選びください。 単一回答	N	%
1	中学校	10	1.0
2	高校	280	27.2
3	専門学校	119	11.6
4	短大	107	10.4
5	高専	16	1.6
6	大学	439	42.6
7	大学院	39	3.8
8	答えたくない	20	1.9
	全体	1030	100.0

Q23	あなたは現在お勤めですか？ お勤めの方は、主なお勤め先の就業人数 をお知らせください。 ※ 会社全体ではなく、あなたの勤務先 単体(本社・支社・営業所など)の人数 をお答えください。 ※「従業員数」には正社員のほか、 パート・アルバイト、契約・派遣社員も含 んでお答えください。 ※ 正確な人数がわからない場合、もっ とも近いと思われるものをお選びくださ い。 単一回答	N	%
1	勤めていない	338	32.8
2	10人未満	166	16.1
3	10～30人未満	96	9.3
4	30～50人未満	58	5.6
5	50～80人未満	44	4.3
6	80～100人未満	25	2.4
7	100～150人未満	31	3.0
8	150～200人未満	23	2.2
9	200～300人未満	27	2.6
10	300～500人未満	35	3.4
11	500～1000人未満	33	3.2
12	1000～2500人未満	27	2.6
13	2500～5000人未満	21	2.0
14	5000～10000人未満	16	1.6
15	10000人以上	44	4.3
16	わからない	46	4.5
	全体	1030	100.0